

# 発掘新聞

3月20日号

平成30年度第3号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

## 特別史跡水城跡の外濠を掘る

### 「欠堤部」の

### 謎にせまる



特別史跡水城跡第64次調査

3月2日、大野城市教育委員会により、特別史跡水城跡第64次調査の現地説明会が行われた。水城は土塁と濠からなる古代の防衛施設で、六六四年に造られたことが『日本書紀』に記されている。土塁は長さ約1.2kmで福岡平野が最も狭くなる部分をふさいでいた。土塁の北側には幅約60m、深さ約4mの外濠があり、ここに水を貯めたことから水城と名付けられた。



大宰府と水城・大野城の位置関係図



水城の中央部には、御笠川が流れているが、当初からこの部分には土塁がつかってなかったことから「欠堤部」と言われている。当館がやって行った欠堤部西側の39次調査で、土塁裾から北側35mの範囲には平坦なテラス

ラス（張出部）が発見され、このテラスがどのような形なのか、欠堤部とはどのような関係なのかといった新たな謎が生まれていた。

今回の調査は、欠堤部から西に50mほどの地点の外濠の中に細長い試掘溝を入れて、地形の変化や土層の堆積状態などを確かめたもので、この地点では土塁際から外濠の落ち込みが始まっていることがわかった。これにより、テラスは土塁裾が次第に広がるのではなく、土塁裾に方形に張り出していた可能性が出てきた。

来年度はテラスの西隣を調査する予定なので、テラスの西側の形や築造方法がわかるかもしれない。（秦記者）



調査地点位置図（大野城市教育委員会作成図に加筆）



外濠の底から出土した奈良時代（8世紀）の土器

土塁欠堤部の西端（木の生えている部分が土塁）



調査地点